

上志津原たより

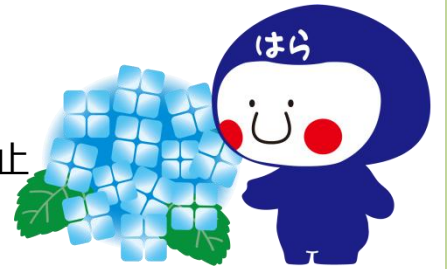
2020 年 5 月 31 日発行

編集発行：上志津原町会広報係

発行責任者：町会長 中野 勇

トピックス

- 鯉のぼり あがりました！
- 緊急事態宣言 解除！
- スポーツ大会（グランドゴルフ）中止
- 幹線道路清掃・自治会館大掃除中止
- やっぱりコロナ詐欺が横行
- まちづくり委員会 発足の経緯を探る



■ 鯉のぼり あがりました！

桜の季節が終わると、はら公園に鯉のぼりがあがります。2008 年、ご自宅に眠っている鯉のぼりの寄付を募って始まった事業で、わざわざ車を停めて立ち寄られる方々もおり、すっかり定着した風景になりました。中には 8 m と大きな鯉のぼりもあり見応えがあります。以前は 9 m のお父さん鯉がいましたが数年前に引退しました。大きな鯉のぼりは、ちょうど子供達の手が届きそうな位置に尾ビレがあるので、ジャンプして掴もうとする様子が印象的で、用意して下さったまちづくり委員会の皆さんも喜んでいらした様子でした。



緊急事態宣言の下、公園での遊びも自粛が呼び掛けられ始めた状況でしたが、行き交う人達にとって、ほんのひと時、コロナストレスの解消になればとの願いが込められています。また、今年は強風が続き、鯉のぼりが酷く傷んでしまいました。ご寄付頂ける鯉のぼりがありましたら、まちづくり委員会又は町会までお声掛け頂けましたら幸いです。元気に泳ぐ鯉のぼりを皆と一緒に楽しみましょう。（まちづくり委員会）



■ 緊急事態宣言 解除！

一足先の 5 月 14 日、39 県を対象に緊急事態宣言が解除され、「クスタの不安」と「ようやくか」と反する思いから複雑な気持ちでいましたが、全国及び首都 3 都県の感染者数減少が進んだ様子を見て安堵しました。そして 10 日間が過ぎ、5 月 25 日（月）、我々が千葉県を含む首都 3 都県が解除されました。一日をただ耐える日々から解放され、日常に戻ってきます。とはいえ、集団を無意識に避けてしまう、マスクなしで出かけることに不安を感じてしまうほど「3 密回避」が摺り込まれていることに気が付きました。以前の様な日常に戻るにはもう暫く時間が必要なようです。

さて、緊急事態宣言が解除されると心配になるのが「クスタ」発生です。これまで頑張ってきた事が台無しになる可能性があります。とは云え、縮こまるのではなく、良識のもと節度ある行動を心掛け、心のリハビリのつもりで緩やかに以前の生活に戻るようによみましょう。千葉県では解除後の要請緩和について施設の種類を 4 つに区分し、概ね 1 週間毎に段階的に解除の判断を行うとしています。（詳細及び最新の情報は千葉県ホームページを参照）

A	図書館、博物館、美術館、科学館、記念館
B	学校、学習塾、教習所、劇場、映画館、演芸場、集会場、公会堂、展示場、ホテルの一部
C	水族館、動物園、植物園、体育館、水泳場、ボート場、麻雀店、パチンコ店、ゲームセンタ、ネットカフェ、漫画喫茶、等
D	スポーツクラブ、カラオケボックス、ライブハウス、ダンスホール、等

佐倉市内の小・中学校では、5 月 18 日週に 1 日程度の分散登校が行われました。今後、頻度・時間を徐々に増やし、子供達の生活と学業の回復が進められます。（登校日に見た子供達の笑顔はとても印象的でした）

町会行事や関連団体行事の再開については、千葉県及び佐倉市の段階毎の要請解除を前提として、感染拡大防止対策のガイドライン（再開にあたり取り組むべき感染拡大防止対策）への適応が整っている行事から順に再開を進めていきたいと思っております。一方、再開が進むと、気の緩みが心配になります。「油断大敵」「事故は魔がさした時に起こる」引き続き皆様にご協力頂きながら、一歩ずつ日常を取り戻していきたいと思っておりますので宜しくお願い致します。（総務）

■ やっぱりコロナ詐欺が横行

前号で話題にした通り、コロナ関連の詐欺が横行しています。

NG ワード

- ・新型コロナウイルス治療薬を開発している
 - ・厚生省ですが、マスクを送るので家族構成を教えてください
 - ・保健所ですが、検査キットを送るので家族構成を教えてください
 - ・新型コロナウイルス対策室ですが、助成金を振り込むので
 - ・感染させてしまった、裁判にならないよう示談金が必要だ
 - ・特別定額給付金とマイナンバーカードの申請代行します
- 旨い話は 100%「詐欺」です。

消費者ホットライン 局番なしの 188（いやや）番
最寄りの警察 110 番



■ スポーツ大会（グランドゴルフ）中止

新型コロナウイルス感染拡大防止の対策として、5 月 17 日（日）予定のスポーツ大会（グランドゴルフ）を中止としました。参加を楽しみにされていた方々の声も届いており、中止はとても残念です。同じく 5 月に予定されていた社協原ブロック主催のウォークラリーも中止となっており、笑顔が集う機会を失うことがこれほどストレスに感じるとは思いませんでした。一日も早く普通の生活に戻れることを願います。（総務）

■ 幹線道路清掃・自治会館大掃除 中止

例年どおりであれば 6 月初旬に町会上げての大掃除を行っています。全国的には 5 月 30 日を「ごみゼロ」運動と称して一斉清掃のイベントが行われてきました。今年の「ごみゼロ」運動は既に中止が発表されており、町会行事の幹線道路清掃・自治会館大掃除も中止としました。（総務）

■ 新型コロナウイルス関連備忘録



■ 異例のゴールデンウィーク ひとりごと

「ステイ・ホーム」…外出自粛を求めるキャッチフレーズ。飛行機も、新幹線も、高速道路も閑散としている。一部には勝手な方もいるようですが、ここまで意識が高まっていることに驚きました。命には代えられないという思いが浸透しているのでしょうか。今日は 5 月 4 日、家の片付もやり切った感じで、何もすることが無くなってきた。

家の手伝いを殆どしなかった子供達が、最近食事の用意をしてくれる。料理の本まで買ってきて本格的だ。外食も警戒されてしまう世の中なので家メシはありがたいが、つつい食べ過ぎてしまうので徐々に身体が重くなるのがわかる。



ゴールデンウィークも終盤になり、そろそろ子供達の家メシ創作意欲も限界に近づいているようだ。「はあ〜、出かけたがこれコロナストレスか。緊急事態宣言は 5 月末までの延長が発表され、特定警戒都道府県以外では、対策を行った上で経済活動の一部が再開されるようだ。我ら千葉県は、更に辛抱が続くことになる。テレビ、ラジオ、ネットのメディアは気分転換となる放送やコンテンツをどんどん送り出している。外で騒ぐことができないのでありがたい。「負けるものか」と切り替え、もうしばらく頑張ってみる。（広報）

■まちづくり委員会 発足の経緯を探る

今年度、広報を担当するこの記事の筆者は 2007 年にこの町に越してきた。どことなく私の田舎と同じ雰囲気を感じている。景色ではなく接する人々に、である。私に町会加入を薦めたのは、近所に住む元気なお母さん達だった。田舎者の私にとって加入は至って普通に加入に抵抗感は無かった。世の中には私にとっての普通が、普通ではないことが沢山ある。町会加入もその一つであろう。ご承知の通り、町会加入は任意であり、町会に入らないからと言って不利益が生じるものではありません。この町の町会加入率は 93%、近隣の自治会に比べ高い水準にあります。近年、町会の役割に大きな変化が起きています。2011 年東日本大震災以降、防災及び災害時の共助の役割が大きくなりました。台風や強風、大雨などは記憶に新しいと思います。

この町には「まちづくり委員会」があり、町会行事のサポートや独自に行事を行っています。新興住宅ができる際には、転入者の方々へ説明会を開催し、この町に住む不安を取り除き、既にお住まいの方々とは住み始める方々との親和性を高める活動を担っておられます。また、防災防犯委員会の立ち上げや運営を支える活動を行っています。なぜ、この町には「まちづくり委員会」があるのか、発足の経緯を知る方々にお話を伺いましたのでご紹介させていただきます。



中山さん

まちづくり委員会の初代委員長である中山亜茂さん、現委員長の萩庭一彦さんです。筆者もある程度は知っているつもりでしたが、初めてお聞きする話があり興味深く聞かせて頂きました。



萩庭さん

筆者> まちづくり委員会は 2008 年に佐倉市の市民協働事業の助成を受けて、立ち上がったと聞いています。何もないところから突然に始まった訳ではないと思いますが、立ち上げに至った経緯を教えてくださいませんか。

中山さん> 2004 年、私が町会長であった年、現在の栗林 2 班の宅地開発が始まりました。工事は唐突に始まり、切り株を掘り起こした大きな穴が多数あり、簡単な囲いのみで「工事中・注意」等の看板もなく、子供たちが遊び場にしてしまうことが懸念され、近隣住民の方々から心配の声が上がりました。当時は規制緩和で至る所で宅地開発が進められ、安全対策の不備や騒音・振動問題が社会的な問題として騒がれていました。「いやあ、まいったなあ」というのが本音でしたが、放置しておける事態ではないので、町会代表として工事業者や佐倉市と問題解消に向けた交渉を行ったことが、立ち上げに至る最初のきっかけだったと思います。

筆者> 当時は、まちづくり委員会の発足前ですから、現在のように有志の方が沢山いるわけではないと思います。大変だったのではないのでしょうか。

中山さん> 大変でした。大変ではありましたが、根気強く話をすれば業者も分かってくれましたので良い方向に進んでいきました。佐倉市も工事業者へ強く指導（守らなければ許可を取り消すと）を行ってくれたことが良かったと思います。ただ、宅地開発は次々と始まっていたので、これらの対応を 1 年で交代する町会長（班長会）へ引き継いでしまっても良いのかを悩んでいました。栗林 2 班の宅地開発の際に声を上げた近隣住民のお 1 人でその後共に活動していた藤谷さんと、その紹介で協力を頂いていた萩庭さんらと、次年度以降の対応について話し合いをしていました。諸問題に関わって対応を進めてきた立場であるため、1 年の任期が終わるので「あとの事はよろしく」と次の町会長（班長会）へ安易な引き継ぎを行うわけにも行かず、町会と協力して宅地開発に関する問題に対して引き続き取り組んでいこう、と云う事になりました。

筆者> 藤谷さんや萩庭さんは以前からの知り合いではなかった、2004 年宅地開発における諸問題への対応を契機に集った、ということでしょうか。

萩庭さん> 藤谷さんとは、私が町会長だった 1997 年度の班長会で知り合い、同郷だったこともあり仲良くなって貰っていました。藤谷さんから相談があり、その後中山さんらと活動を共にしました。

筆者> 意外です。もっと以前から旧知の仲で、有志として町会の支援をされていたのかと思っていました。現在の様にそういう有志の方が沢山いたのだと思っていました。

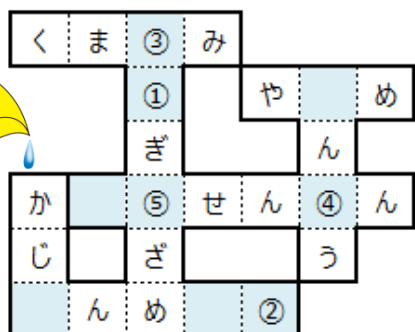
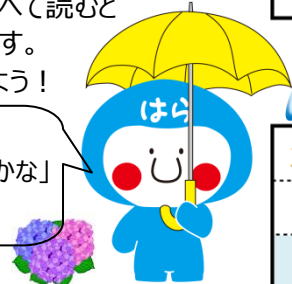
萩庭さん> もちろん町会を支援して下さる方々はいました。宅地開発問題の対応には時間がかかること、専門的に対応する必要があったこともあり、徐々にそういった面々が集ってきたという感じです。

■クロスワード

①→⑤の順に並べて読むとある言葉になります。

さあ、皆で考えよう！

ヒントだモン。各項目は「おさかな」の名前だよ。



親子ふれあいキャンプ

筆者> まちづくり委員会は 2008 年に発足とありましたが、中山さんが町会長を交代した 2005 年から 2008 年の間は特に組織化はされていなかった。有志個人として活動されていた、ということでしょうか。

萩庭さん> そうです。特に肩書きも無かつたし、活動費もありませんでした。筆者> いやいや待って下さい。宅地開発問題は素人感覚でも大変だとわかります。単に個人の集まりで対応していたということですか。驚きました。

萩庭さん> それで、藤谷さんが「活動費が貰えるかもしれない」と市民協働事業の話を見つけてきました。今でこそ市民協働事業と云えば、まちづくりや地域コミュニティの醸成など主流となっていますが、当時はまだ「まちづくり」の認知はとても低かった。市民協働事業には、市が指定する事業（環境整備など）を市民が成り代わって行うものと、市民提案型があり前者が主流だったようです。「まちづくり」として市民提案型を申請した際、市の反応は「これは自治会が行う活動ではないのか、自治会との違いを説明して欲しい」というものでした。班長会は町会の最高機関であることに変わりないが、1 年交代の班長会では困難な事業継続の観点で町会を支えることを理解頂くことに時間が掛かりました。中山さんと藤谷さんに何度も説明に行っていました。

筆者> 市民協働事業に「まちづくり」というテーマがあり、それに乗ったのだと思っていました。

萩庭さん> 当時、「まちづくり」は一般的ではなく、市でも理解を深める為に時間が必要だったということだと思います。理解されて以降は積極的な協力もあり対応はとても良かったです。市内に留まらず県内の講演会に何度も呼ばれ活動状況のプレゼンやトーク会を行いました。全国まちづくり大会にも招待された程でしたので、かなり先駆的だったと思います。

筆者> 当時の「はらたより」にまちづくり支援隊（仮称）と紹介されていました。宅地開発問題を専門的に対応する役割から、発足を契機に地域コミュニティ醸成に大きく変貌することになったのですね。

中山さん> 「まちづくり支援隊」（後に委員会）の名称は藤谷さんが考案し、紙面に紹介された「はら CoCo くらぶ」のロゴマークは宮坂明雄さんが考案して下さい、「Community & Collaboration」の意味が込められています。2008 年 7 月 6 日に、多くの方に集まって頂き結成会議を行いました。グループにわかれて、自分達にできる活動を発案して頂き、この発案をもとにふれあいどおり部会、踊り部会、おはよう部会、パソコン部会、イベント部会がスタートし現在も活動しています。（各部会の紹介は町会ホームページを参照下さい）



筆者> 多様な活動を通じてコミュニケーションが盛んに行われていることを当たり前のように感じていますが、発足以前は無かつたのでしょうか。

萩庭さん> サークル活動（こちらも町会ホームページを参照下さい）があり、これも大変有意義な活動です。町会行事を支える役割を担い、独自に町会を盛り上げようとする活動は会の発足を契機に始まり、活動を通じてコミュニケーションがより盛んに行われるようになったと思います。

筆者> 今回は「まちづくり委員会」発足の経緯を紐解こうとお時間を頂きました。各部会の活動については次の機会にご紹介させて頂きたいと思います。中山さん、萩庭さん、貴重なお話しをお聞かせ頂きありがとうございました。今後ともどうぞ宜しくお願い致します。（広報）

■子供会からのお願い

廃品回収（資源ゴミ回収）の収益は、子供会の活動資金となります。実施日：毎月第 3 日曜日（雨天決行です）
・紙類、ダンボール、牛乳パック、布類は通常のゴミ置き場に
・アルミ缶は 9 時に「はらトピア」まで
佐倉市が行う回収も資源回収ですが、子供会の資金とはなりません。是非とも子供会へのご協力をお願い致します。4 月の収益は 17,970 円でした。ご協力ありがとうございました！！

■編集後記

班長会や行事が中止となり、例年のような情報をお届けする事ができません。テレビでは過去に放送した人気ドラマの再放送をバンバン放送しています。なるほど！「原たより」も過去を振り返り、興味の持てる情報をリメイクしてみよう！ということで発想を切り替えてみました。制約の多いご時世ですが、チャレンジしながら色々な情報をお届けしようと思います。ご協力をお願い致します。